

# JALOS ニュース

Japan Lubricating Oil Society

2022 3月号

## 令和2年度 PRTR データの公表について ～第一種指定化学物質の排出量・移動量の集計結果等～

経済産業省及び環境省は、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」に基づき、事業者から届出のあった化学物質の令和2年度の排出量・移動量等のデータの集計を行い、取りまとめた結果を3月4日付で公表しました。以下にその概要をお知らせいたします。

届出のあった全国の32,890事業所の令和2年度の排出量・移動量について集計したところ、排出量は124千トン（対前年度比11.4%の減少）、移動量は230千トン（対前年度比6.3%の減少）、排出量と移動量の合計では354千トン（対前年度比8.2%減少）となりました。また、施行令改正前後における継続物質<sup>\*</sup>の排出量は111千トン（対前年度比12%の減少）となり、引き続き減少傾向となりました。

※継続物質：物質見直しの前後で継続して届出対象物質として指定されている276物質

### 1. 排出量・移動量の届出状況

業種別届出状況は表1のとおりです。石油製品・石炭製品製造業については、届出事業所数は575事業所で、届出物質種類数では119となっています。また、石油卸売業においては、届出事業所数は446事業所で、届出物質種類数では16となっています。

## 目次

- |  |            |
|--|------------|
| 1. 令和2年度 PRTR データの公表について                   | 4. 潤滑油需給統計 |
| 2. JALOS 技術講習会<br>「入門コース・潤滑油剤の基礎知識」開催のお知らせ | 5. お知らせ    |
| 3. JALOS 技術講習会<br>「初級コース 試験・分析方法」開催のお知らせ   | 6. 協会の動き   |
|  | 7. 今後の予定   |

一般社団法人 潤滑油協会

URL <https://www.jalos.or.jp/>

表 1. 業種別にみた届出状況

業種	届出 事業所数	届出物質 種類数	業種	届出 事業所数	届出物質 種類数
金属鉱業	20	37	武器製造業	4	14
原油・天然ガス鉱業	19	36	その他の製造業	87	43
食料品製造業	421	44	電気業	184	67
飲料・たばこ・飼料製造業	139	34	ガス業	20	7
繊維工業	152	71	熱供給業	10	8
衣服・その他の繊維製品製造業	25	18	下水道業	2,012	35
木材・木製品製造業	174	30	鉄道業	46	18
家具・装備品製造業	76	25	倉庫業	99	72
パルプ・紙・紙加工品製造業	393	94	石油卸売業	446	16
出版・印刷・同関連産業	290	42	鉄スクラップ卸売業	4	6
化学工業	2,278	427	自動車卸売業	4	7
石油製品・石炭製品製造業	575	119	燃料小売業	14,661	12
プラスチック製品製造業	1,024	136	洗濯業	120	10
ゴム製品製造業	287	94	写真業	1	1
なめし革・同製品・毛皮製造業	19	16	自動車整備業	108	11
窯業・土石製品製造業	555	122	機械修理業	15	20
鉄鋼業	366	86	商品検査業	30	11
非鉄金属製造業	508	102	計量証明業	29	22
金属製品製造業	1,771	89	一般廃棄物処理業	1,672	43
一般機械器具製造業	758	82	産業廃棄物処分業	455	62
電気機械器具製造業	1,201	118	医療業	100	11
輸送用機械器具製造業	1,113	119	高等教育機関	126	13
精密機械器具製造業	234	59	自然科学研究所	259	60
			合計	32,890	431

(経済産業省 HP)

<https://www.meti.go.jp/press/2021/03/20220304002/20220304002-a.pdf>

## 2. 届出排出量・移動量について

### 1) 届出排出量・移動量

届出排出量・移動量の経年変化を図 1 に示します。

令和 2 年度の（以下、特に年度を明示していない排出量等については令和 2 年度のもの指す。）全対象化学物質の届出排出量・移動量は 354 千トンと、前年度と比較して 8.2%減少しました。また、平成 20 年政令改正の前後で継続して届出対象物質として指定された物質（以下「継続物質」という。）276 物質のうち令和 2 年度に届出があった 260 物質\*を対象として集計した届出排出量・移動量も 317 千トンと、前年度と比較して 8.6%減少しました。なお、平成 20 年政令改正で追加された届出対象物質（以下「追加対象化学物質」という。）の届出排出量・移動量は 37 千トンでした。

継続物質の排出先別の届出排出量・移動量の推移を表 2 に示します。継続物質の排出量は 111 千トン（同比 12%減少）、移動量は 207 千トン（同比 7.0%減少）となっています。

※令和 2 年度分として届出がなかった物質：CFC-13、CFC-115、CFC-114、エディフェンホス、エチルチオメトン、ホサロン、ハロン-2402、フェノチオカルブ、ピラクロホス、CFC-112、トリクロピル、クロフェンチジン、ハロン-1211、酸化フェンブタズ、エンドスルファン、ペンタクロロフェノール

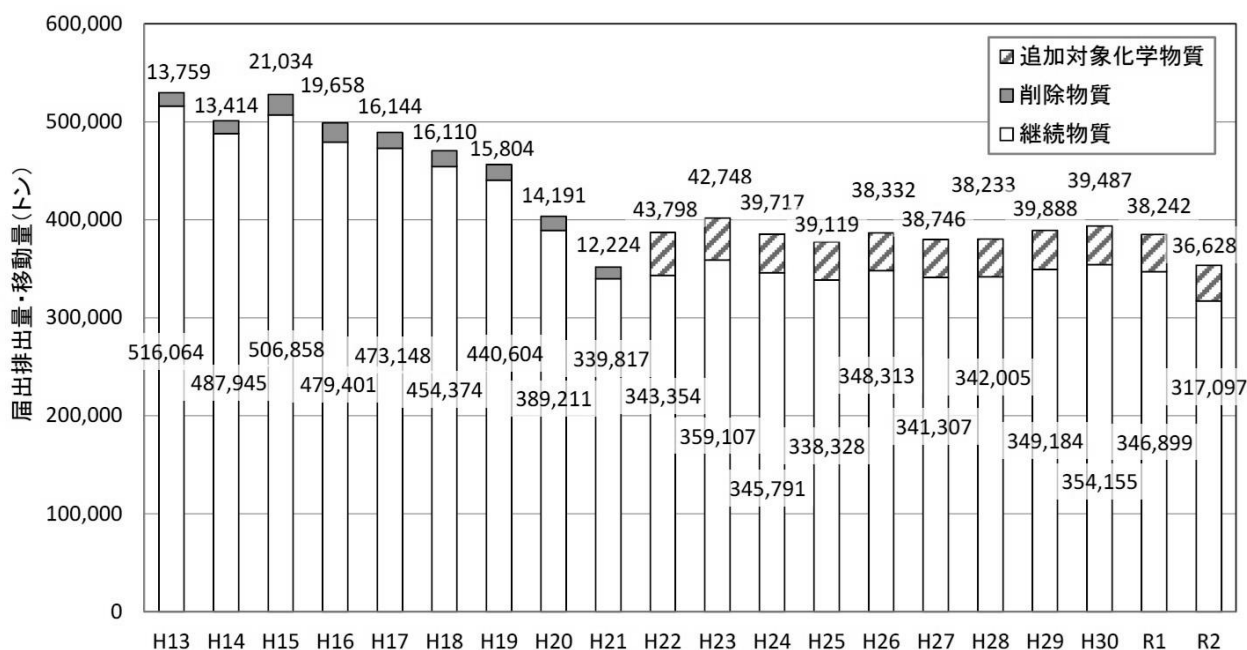


図 1. 届出排出量・移動量の経年変化

表 2. 届出排出量・移動量の推移（継続物質）

排出先	届出排出量・移動量の経年変化（継続物質）										
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
排出量 (トン/年)	大気	142,095	132,504	129,918	128,269	124,879	121,231	121,798	118,843	112,484	99,079
		(158,552)	(148,036)	(145,909)	(144,265)	(140,568)	(136,626)	(137,661)	(134,759)	(127,509)	(112,481)
	公共用水域	8,161	7,439	7,267	7,102	6,998	7,168	6,938	7,074	6,967	6,390
		(8,610)	(7,767)	(7,471)	(7,284)	(7,203)	(7,364)	(7,136)	(7,225)	(7,114)	(6,527)
	土壌	154	1.7	5.4	1.4	2.9	2.6	2.9	2.1	202	24
(154)		(1.7)	(5.4)	(1.5)	(3.1)	(2.9)	(3.1)	(2.1)	(202)	(24)	
埋立	8,088	7,698	7,681	7,702	7,330	7,387	7,165	6,328	5,287	5,081	
	(8,106)	(7,698)	(7,681)	(7,702)	(7,330)	(7,387)	(7,165)	(6,328)	(5,287)	(5,081)	
排出量合計	158,497	147,643	144,871	143,074	139,210	135,788	135,904	132,246	124,939	110,575	
	(175,421)	(163,503)	(161,068)	(159,252)	(155,104)	(151,380)	(151,966)	(148,314)	(140,111)	(124,114)	
排出量 (トン/年)	廃棄物	199,532	197,131	192,376	204,354	201,126	205,222	212,545	221,183	221,233	205,863
		(224,987)	(220,617)	(215,075)	(226,249)	(223,782)	(227,699)	(236,176)	(244,432)	(244,149)	(228,830)
	下水道	1,078	1,016	1,081	885	971	994	736	726	727	659
	(1,447)	(1,388)	(1,305)	(1,144)	(1,166)	(1,158)	(930)	(896)	(880)	(782)	
移動量合計	200,610	198,147	193,457	205,239	202,097	206,216	213,281	221,908	221,960	206,522	
	(226,434)	(222,005)	(216,380)	(227,393)	(224,949)	(228,858)	(237,107)	(245,328)	(245,029)	(229,612)	
届出排出量・移動量合計 (トン/年)	359,107	345,791	338,328	348,313	341,307	342,005	349,184	354,155	346,899	317,097	
	(401,855)	(385,508)	(377,447)	(386,645)	(380,053)	(380,238)	(389,072)	(393,642)	(385,141)	(353,725)	

注：表中( )内の数値は、総届出排出量・移動量の合計(トン/年)

(図 1, 表 2 経済産業省 HP)

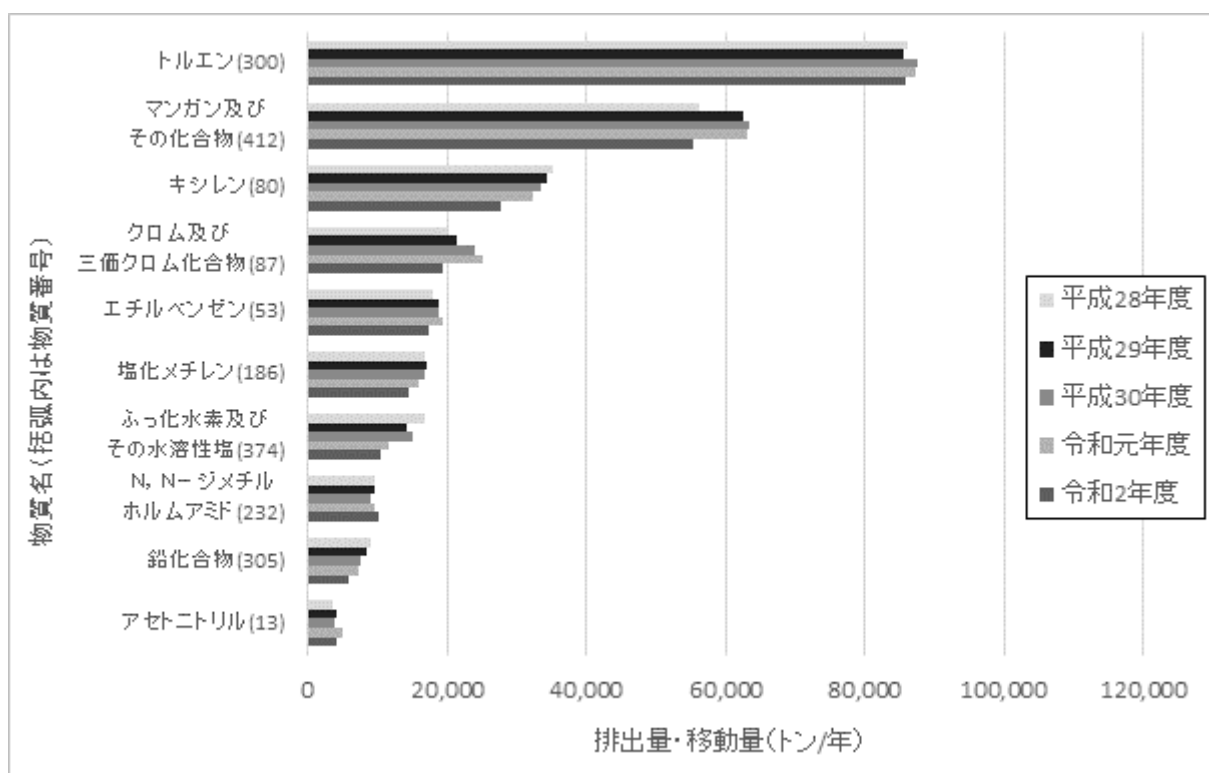
<https://www.meti.go.jp/press/2021/03/20220304002/20220304002-b.pdf>

※表 2 は紙面の都合により平成 13 年～平成 22 年までを省略しています

## 2) 届出排出量・移動量の多い物質

届出排出量・移動量に関する平成 28 年度から令和 2 年度までの上位 10 物質について図 2 に示します。上位 10 物質の順位は前年度と同じとなっています。上位 10 物質の合計は 251 千トンで総届出排出量・移動量 317 千トンの 79.3%に当たります。

届出排出量・移動量の多い上位 5 物質は、合成原料や溶剤として幅広く用いられるトルエンが 86 千トンで最も多く、全物質の合計の 27.1%でした。ついで、特殊鋼・電池などに用いられるマンガン及びその化合物が 55 千トン（全物質合計の 17.5%）、合成原料や溶剤として用いられるキシレンが 28 千トン（全物質合計の 8.8%）、緑色顔料やメッキ処理剤などに用いられるクロム及び三価クロム化合物が 20 千トン（全物質合計の 5.5%）合成原料や溶剤などに用いられるエチルベンゼンが 17 千トン（全物質合計の 4.6%）、の順となっています。

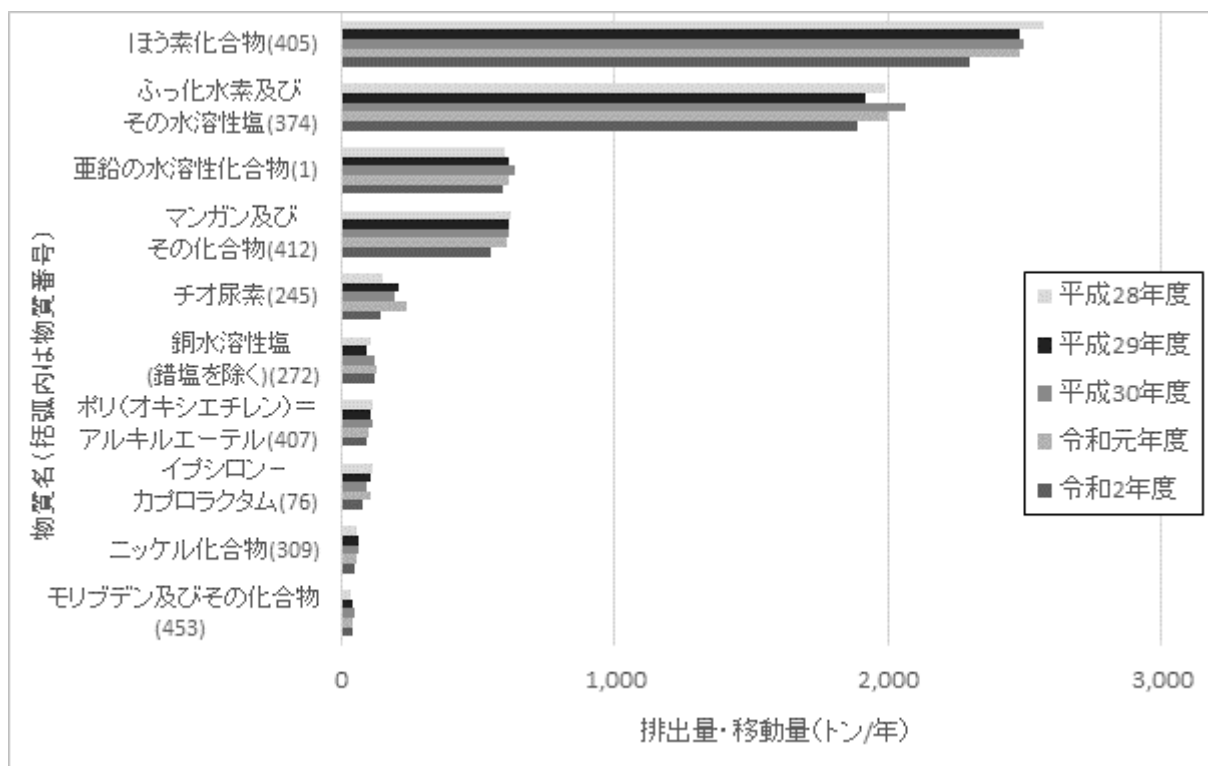


(参考) 追加対象化学物質のうち届出排出量・移動量の上位 3 物質：ノルマルヘキサン：12,942 トン/年、塩化第二鉄：7,516 トン/年、N, N-ジメチルアセトアミド：4,178 トン/年

図 2. 平成 28 年度から令和 2 年度までの届出排出量・移動量上位 10 物質の状況

また、平成 28 年度から令和 2 年度までの公共用水域への届出排出量上位 10 物質について図 3 に示します。前年度 10 番目の二硫化炭素に替わって、10 番目にモリブデン及びその化合物が入っています。また、それ以外の物質の構成は前年度と同じとなっていますが、前年度 7 番目のイブシロン-カプロラクタムと 8 番目のポリ（オキシエチレン）=アルキルエーテル（アルキル基の炭素数が 12 から 15 までのもの及びその混合物に限る。）との順位が入れ替わっています。

上位 10 物質の合計は 5.8 千トンで、公共用水域への総届出排出量 6.4 千トンの 91.4%に当たります。公共用水域への届出排出量の多い上位 5 物質は、ほう素化合物が 2.3 千トンで最も多く、全物質の合計の 35.9%でした。ついで、ふっ化水素及びその水溶性塩が 1.9 千トン（全物質合計の 29.5%）、亜鉛の水溶性化合物が 0.59 千トン（全物質合計の 9.3%）、マンガン及びその化合物が 0.55 千トン（全物質合計の 8.6%）、チオ尿素が 0.14 千トン（全物質合計の 2.2%）の順となっています。



(参考) 追加対象化学物質のうち公共用水域への排出量上位 3 物質：2，2-ジブロモ-2-シアノアセトアミド：28 トン/年、N，N-ジメチルアセトアミド：19 トン/年、ポリ（オキシエチレン）＝ドデシルエーテル硫酸エステルナトリウム：18 トン/年

図 3. 平成 28 年度から令和 2 年度までの公共用水域への届出排出量上位 10 物質の状況

令和 2 年度の集計結果の詳細については、以下をご覧ください。

◇経済産業省ホームページ

ホーム > ニュースリリース > ニュースリリースアーカイブ > 2021 年度 3 月一覧 > 令和 2 年度 PRTR データをとりまとめました

<https://www.meti.go.jp/press/2021/03/20220304002/20220304002.html>

◇環境省ホームページ

ホーム > 報道・広報 > 報道発表資料 > 令和 2 年度 PRTR データの概要等について - 化学物質の排出量・移動量の集計結果等 -

<https://www.env.go.jp/press/110639.html>

◆ JALOS 技術講習会「入門コース・潤滑油剤の基礎知識」開催のご案内 ◆

先月号でもお知らせしましたが、2022 年度 JALOS 技術講習会「入門コース・潤滑油剤の基礎知識」を下記の日程で開催します。

この講座は潤滑油と初めて係わりを持たれ、その効果的な使い方についてこれから取り組んでいかれる方々を対象とした学習講座です。スタートのうちに習得しておくべき潤滑油における最新の基礎知識と潤滑油の面白さについて、専門家の立場に立たれているベテランの講師の方々が、丁寧に解説し理解を深めていただきます。

先進な知識と潤滑油への好奇心を修得されるために、奮ってご参加されることをお勧めいたします。

なお、本年度もオンライン方式（Webex Meetings）での開催とさせていただきますので、ご承知おきください。  
※ご好評につき、2 クラスの開催を予定しております。

【講座概要】

受講対象者：潤滑油関係・新入社員クラスの方（事務系、技術系は問いません）

日 程：2022 年 5 月 20 日（金）（A 日程）、2022 年 6 月 17 日（金）（B 日程）

9:30～16:30（昼休み 12:00～13:00） ※A 日程、B 日程ともに同一の内容です。

方 法：オンライン方式（Webex Meetings）

内 容：①潤滑油剤の基礎知識

講師：青山 昌二 氏（元出光興産株式会社 潤滑油部）

②潤滑油の種類と品質、使い方

○車両用潤滑油

講師：平塚 孝嗣 氏

（コスモ石油ルブリカンツ株式会社 直売技術部 統括グループ グループ長）

○工業用潤滑油・金属加工油及びグリース

講師：山本 邦治 氏

（コスモ石油ルブリカンツ株式会社 商品研究所 工業潤滑油グループ グループ長）

定 員：各 20 名（先着順）

受 講 料：（テキスト代、消費税を含みます。）

正 会 員 20,900 円 特別会員 24,200 円

賛助会員 27,500 円 一 般 35,200 円

【受講申込み先および問合せ先】

一般社団法人 潤滑油協会・JALOS 技術講習会担当

TEL 047-433-5181 FAX 047-431-9579

URL <https://www.jalos.or.jp/>



※詳細につきましては、同封の開催案内をご覧ください。

## ◆ JALOS 技術講習会「初級コース 試験・分析方法」開催のご案内 ◆

2022 年度 JALOS 技術講習会「初級コース 試験・分析方法」を下記の日程で開催いたします。この講座では、潤滑油の選定及び使用中の管理において必要不可欠な油の分析試験、評価手法の基礎について体系的に解説致します。試験成績書などに示されているデータから得られる情報を正しく理解し、サンプルの状況を適切に把握するためには、試験のやり方とその結果が示す意味をしっかりと身に付けておくことが大切です。多数の方が受講されるようご案内いたします。なお、本年度も引き続きオンライン（Zoom ミーティング）方式での開催とさせていただきます。

## 【講座概要】

受講対象者：潤滑剤関係業務において（経験 1～3 年程度）

- 潤滑剤に興味をお持ちの方
- 潤滑管理の実践を目指すユーザーの方  
およびサポートされるメーカーの方

日 程：2022 年 7 月 22 日（金）

開催方法：オンライン研修（Zoom ミーティング）

内 容：試験・分析方法と目的

講 師：ENEOS 株式会社 中央技術研究所 ソリューションセンター  
試験分析グループ 担当マネージャー  
中野 幸弘 氏

定 員：18 名（先着順）

受講料（テキスト代、消費税を含みます。）

正 会 員	18,700 円	賛助会員	25,300 円
特別会員	22,000 円	一 般	33,000 円

申 込 先：同封の開催案内をご覧ください。

## 【問合せ先】

一般社団法人 潤滑油協会・JALOS 技術講習会担当

TEL 047-433-5181 FAX 047-431-9579

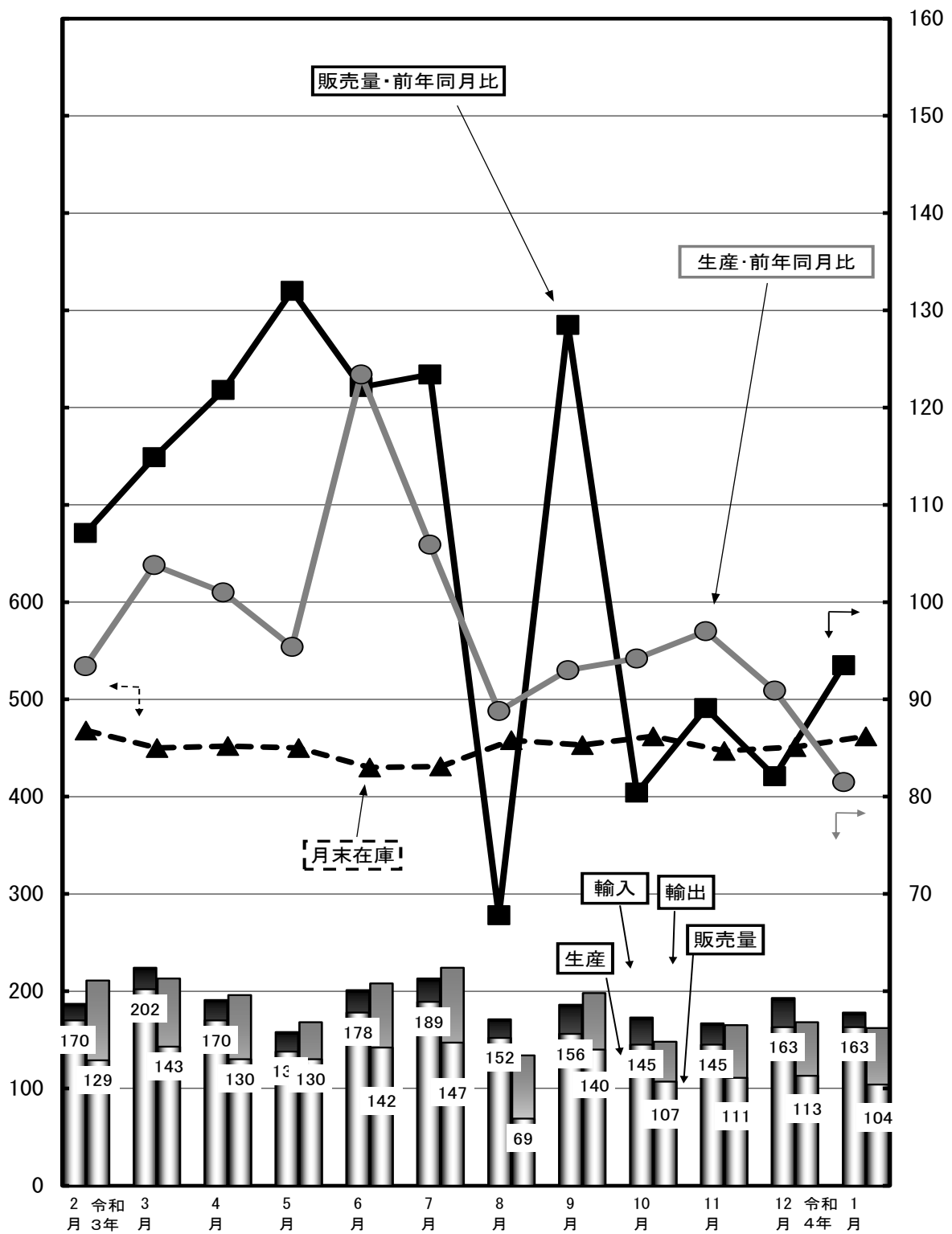
URL <https://www.jalos.or.jp/>



※詳細につきましては、同封の開催案内をご覧ください。

## 潤滑油需給統計

1月の生産量は163千kLで前年同月比で18.5%下回り、販売量は104千kLで6.5%下回った。  
(千kL)



出典：経済産業省 資源・エネルギー統計月報（注：棒グラフ上段の数字は生産量、下段の数字は販売量）



潤滑油需給統計（時系列表）

（単位：kL）

年 月	生産	輸入	国内向販売	輸出	在庫	販売部門 (製造業者・輸入業者)	
						生産部門	販売部門
令和 1年	2,268,946	235,247	1,578,055	839,240	460,599	170,119	290,480
2年	2,026,775	195,920	1,419,764	749,232	468,262	182,964	285,298
3年	2,008,464	270,105	1,472,332	766,211	450,916	168,202	282,714
令和 1年度	2,259,619	238,904	1,547,761	843,884	504,522	204,557	299,965
2年度	2,029,653	192,810	1,430,267	812,851	450,597	177,166	273,431
令和 2年10~12月	482,381	58,385	395,682	179,753	468,262	182,964	285,298
令和 3年 1~3月	572,028	53,826	383,942	246,676	450,597	177,166	273,431
4~6	486,334	64,331	401,040	170,031	430,240	156,605	273,635
7~9	497,386	72,084	356,226	199,351	452,815	162,675	290,140
10~12	452,716	79,864	331,124	150,153	450,916	168,202	282,714
令和 2年11月	149,657	27,587	124,191	52,072	463,019	174,427	288,592
12月	178,816	20,108	138,262	62,856	468,262	182,964	285,298
令和 3年 1月	200,105	14,315	111,525	94,814	467,797	177,314	290,483
2月	169,813	17,096	128,987	81,900	450,013	165,699	284,314
3月	202,110	22,415	143,430	69,962	450,597	177,166	273,431
4月	169,552	20,941	129,563	65,535	452,423	172,639	279,784
5月	138,472	20,072	129,577	38,029	449,923	166,330	283,593
6月	178,310	23,318	141,900	66,467	430,240	156,605	273,635
7月	189,279	23,585	147,253	77,167	431,005	149,989	281,016
8月	152,304	18,949	68,909	64,576	457,894	163,339	294,555
9月	155,803	29,550	140,064	57,608	452,815	162,675	290,140
10月	145,046	28,190	107,057	41,043	461,562	164,232	297,330
11月	145,128	21,704	110,599	53,885	447,263	155,306	291,957
12月	162,542	29,970	113,468	55,225	450,916	168,202	282,714
令和 4年 1月	163,011	14,676	104,243	58,029	461,973	168,753	293,220
前年同月比 (%)	81.5	102.5	93.5	61.2	98.8	95.2	100.9

※「国内向販売」は調査対象が調査対象以外（消費、卸売又は小売事業所）へ販売した数量（理論値）を示す

製造業者・輸入業者の消費者・販売業者向販売、在庫内訳

（単位：kL）

区 分	消費者・販売業者向販売 (前年同月比 %)	在 庫 (前年同月比 %)
潤滑油計(R04年1月)	169,909 (99.4)	293,220 (100.9)
ガソリンエンジン油	27,820 (100.6)	22,325 (99.2)
ディーゼルエンジン油	18,090 (108.8)	10,762 (100.3)
その他 車両用	16,177 (91.5)	22,899 (124.9)
船舶用エンジン油	8,474 (90.2)	10,537 (91.8)
機 械 油	24,511 (106.7)	21,533 (113.8)
金属加工油	11,365 (103.9)	13,968 (108.2)
電気絶縁油	4,504 (122.4)	6,545 (87.2)
その他特定用途向け	39,330 (96.7)	96,568 (89.1)
その他	19,638 (92.3)	88,083 (110.4)

出典：経済産業省 資源・エネルギー統計月報

## お知らせ

### ○令和4年「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」について

この度、厚生労働省より標記についての周知依頼がありましたので、お知らせいたします。

厚生労働省は、職場における熱中症<sup>※1</sup> 予防対策を徹底するため、労働災害防止団体などと連携し、5月から9月まで、「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」を実施します。

#### ◆「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」概要

厚生労働省は、労働災害防止団体などと連携し、事業場への熱中症予防に関する周知・啓発を行う他、熱中症に関する資料やオンライン講習動画等を掲載しているポータルサイトを運営します。

また、周知、啓発に当たっては熱中症発生時に速やかに適切な対応を行うために必要な「初期症状の把握から緊急時対応までの体制整備」、熱中症の発症リスクの高い作業者に対応するために必要な「暑熱順化が不足している<sup>※2</sup> と考えられる者の把握」、熱中症を発生させないために必要な「WBGT値<sup>※3</sup>の実測とその結果を踏まえた対策の実施」について重点的に呼びかけます。

#### ◆「令和3年職場における熱中症による死傷災害の発生状況（速報値）」

令和3年の速報値では、死亡を含む休業4日以上<sup>※4</sup>の死傷者数は547人、うち死亡者数は20人となっています。業種別にみると、死傷者数については、全体の約4割が建設業と製造業で発生しています。また、死亡者数は、「建設業」、「商業」の順に多く、被災者の救急搬送が遅れた事例が見られません。また、入職直後や夏休み明けで暑熱順化が不十分とみられる事例（死亡災害20件中9件）や、WBGT値を実測せず、その結果としてWBGT基準値に応じた措置が講じられていなかった事例（死亡災害20件中、日頃からWBGT値を実測していたことが確認された事例は5件のみ）なども含まれています。

##### ※1 熱中症とは

高温多湿な環境下において、体内の水分と塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害の総称。めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直、大量の発汗、頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐（おうと）・倦怠（けんたい）感・虚脱感、意識障害・痙攣（けいれん）・手足の運動障害、高体温などの症状が現れる。

##### ※2 暑熱順化の不足とは

暑熱環境下での作業に身体の体温調節や循環の機能が慣れていないこと。入職直後や夏季休暇明けの者は暑熱順化の不足が疑われ、熱中症の発症リスクが高い。

##### ※3 WBGT値とは

気温に加え、湿度、風速、輻射（放射）熱を考慮した暑熱環境によるストレスの評価を行う暑さの指数。

詳細につきましては、下記ホームページをご参照下さい。

#### ◇厚生労働省ホームページ

ホーム > 報道・広報 > 報道発表資料 > 2022年2月 > 令和4年「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」を実施します

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_24043.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24043.html)

### ○インボイス制度開始に関する周知等について

この度、資源エネルギー庁石油精製備蓄課より標記についての周知依頼がありましたので、お知らせいたします。

「免税事業者及びその取引先のインボイス制度への対応に関する Q&A」を公表後において、事業者の方々から寄せられている質問等に基づき、免税事業者やその取引先の対応に関する考え方が追加等され公表されました。当該 Q&A について、会員各位にご確認いただき、引き続き関係法令が遵守されるようお願いしたいとのことです。

詳細につきましては、下記ホームページをご参照下さい。

#### ◇中小企業庁ホームページ

トップページ > 財務サポート > 税制

<https://www.chusho.meti.go.jp/zaimu/zeisei/index.html>

## 協会の動き

### ○第 46 回 JASO 次世代ガソリンエンジン油 TF (Web 会議) に参画

2月22日(火)に、石油連盟および一般社団法人 日本自動車工業会による「第46回 JASO 次世代ガソリンエンジン油 TF」に参画しました。

### ○第 3 回 安全推進分科会 (Web 会議)

2月24日(木)に、第3回 安全推進分科会(分科会長: シェル ルブリカンツ ジャパン株式会社 山中 正樹 氏)を開催しました。議事内容は以下のとおりです。

(1) 2021 年度事業報告について (2) 2022 年度事業計画について (3) その他

### ○ISO・JIS 試験法分科会 (Web 会議) に参画

2月25日(金)に開催された、石油連盟主催による「ISO・JIS 試験法分科会」に参画し、ISO・JIS 原案について審議しました。

### ○第 3 回 技術分科会 (Web 会議)

3月3日(木)に、第3回 技術分科会(分科会長: 三和化成工業株式会社 滝島 克巳 氏)を開催しました。審議内容は以下のとおりです。

(1) 2021 年度事業報告について (2) 2022 年度事業計画について (3) その他

### ○第 3 回 潤滑油製造業近代化委員会 (Web 会議)

3月4日(金)に、第3回 潤滑油製造業近代化委員会(委員長: ユシロ化学工業株式会社 岩田 重広 氏)を開催しました。審議内容は以下のとおりです。

(1) 2021 年度事業報告について (2) 2022 年度事業計画について (3) その他

○油脂技術分科会（Web 会議）に参加

3月9日（水）に開催された、一般社団法人 日本農業機械工業会主催による「油脂技術分科会」にオブザーバーとして参加しました。

○塩素分試験方法専門委員会（Web 会議）に参画

3月10日（木）に開催された、公益社団法人 石油学会主催による「塩素分試験方法専門委員会」に参画しました。

○潤滑油分科会（Web 会議）に参画

3月15日（火）に開催された、公益社団法人 石油学会主催による「潤滑油分科会」に参画しました。

○ISO・JIS 試験法分科会（Web 会議）に参画

3月16日（水）に開催された、石油連盟主催による「ISO・JIS 試験法分科会」に参画し、ISO・JIS 原案について審議しました。

○第3回 潤滑油品質委員会（Web 会議）

3月17日（木）に、第3回 潤滑油品質委員会（委員長：東京工業大学 名誉教授 益子 正文 氏）を開催しました。議事内容は以下のとおりです。

- (1) 2021 年度事業報告について
- (2) その他

○試験法分科会（Web 会議）に参画

3月17日（木）に開催された、公益社団法人 石油学会主催による「試験法分科会」に参画しました。

## 今後の予定

○企画委員会・精製元売部会・専業者部会 合同会議

3月23日 Web 開催

○理事会

3月24日 Web 開催

4月21日 Web 開催

○潤滑剤等関連団体連絡会議

4月20日 Web 開催

禁無断転載

発行日 2022年3月18日

発行所 一般社団法人 潤滑油協会

〒273-0015

千葉県船橋市日の出二丁目16番1号

TEL 047-433-5181（代表）

FAX 047-431-9579

印刷所 株式会社みつわ